

◎東大・京大志望者向け 模試判定の考え方その2

【設問別成績に注目する】

ここで、「模試の成績表で、判定とか偏差値があまり参考にならないのであれば、受ける必要がないのではないか？」と思った方、それは違います。模試の成績表で注目すべきところは、判定や偏差値ではなく、「設問別成績」の欄です。得点、偏差値、全国平均点、全国平均点との差が項目として掲載されているはずです。

模試はあくまで「模擬」試験ですので、そこから課題を見出して手を打たないと受ける意味がありません。まずは、自分の得点と全国平均点との差を確認しましょう。各教科の得点のうち、どの大問で取れていたか、どの分野が弱いのか、全体の平均点と比べて自分がどうかを洗い出すことがポイントです。

共通テスト模試や普通の全国模試の全国平均点との差異だと、いろいろな大学の志望者がいる中での平均なので、冠模試のそれと比べると参考レベルは落ちますが、逆に言うと共通テスト模試や普通の全国模試において偏差値50を下回っている大問は、イコール全国平均点より下＝差をつけられる可能性がある分野と考えられ、確実な補強が必要です（逆に、東大京大実戦やオープンにおける偏差値50は、東大京大志望者の母集団における平均値となりますので、そこまで悪い数字ではありません）。

ちなみに私の視点からすると、A判定の方であっても、大問別で細かく見ると大小様々な課題が見つかります。判定は合格を保証してくれるものでは全くありませんので、**A判定**だろうと**E判定**だろうと、合格に一步でも近づくためには、判定をみて一喜一憂ではなく、しっかり大問別で確認をするようにしてください。また、答案も戻ってくると思いますので、成績表からわかった全国平均点との差異があった問題について、今一度解説から見直しをしましょう。

例えば全国平均が比較的高く、自分ができていない問題は、いわゆる「取り間」と考えられますので、ここを落としているとかなり合格は厳しくなります。各大問の状況を見て課題の再点検、優先順位の見直しを行ってください。

【A判定者の大問別度数分布】

東大実戦・京大実戦については、成績データがありますので、もう少し深掘りしてみます。

→「A判定を取った受験生がどのように得点しているのかの“度数分布”」を出してみました。同じ平均点であったとしても、度数分布の出方は異なります(例えば20点の大問で同じ平均点10点だったとしても、全員が10点の場合と、半分が20点＋もう半分が0点の場合とでは受け取り方を変える必要があります)ので、ここまで数字が確認できるとだいぶ参考になるかと思います。

この発想がもっとも効果的な科目は「数学」なので、例として東大の文系数学を見てみましょう。A判定の人で完答した人数が最も多いのは第2問です。この大問で20点満点の人は

約31%いました(20点が最頻値)。他の大問は10%未満ですので、A判定者であっても一部の方しか完答できなかったが、第2問だけは確実に得点している子が多かったということがわかります。一方で第3問は0点の方が約32%強いました(0点が最頻値)。A判定者でも0点の人が多かったということで、ここは得点できなくてもやむなし・・・という評価となります。その他第1問は最頻値が7点(約33%)、第4問は最頻値が2点(約24%)でしたので、

第2問を確実に完答して、第1問と第4問で半完すれば及第点・・・と言えます。

同様に東大理系を見ると、第1問が20点＋19点で46%、第3問が20点で32%なので、この2つが完答を目指せる大問と評価できます。一方で、第2問は6点＋4点で70%、第4問は5点で40%、第5問は5点＋3点で42%、第6問は8点＋4点で67%ということで、その他の大問も手はつ

く問題だったと言えます。大問1・3できっちり完投して、あとは部分点を拾えば及第点・・・と言えます。

京大文系は、第1問・第2問・第3問の最頻値が30点で、それぞれ23%、42%、26%、第4問が10点で57%、第5問が4点で33%でした。第1問は19点も22%、第3問は22点が21%いたので、第2問＋第1問か第3問のどちらかで完答、残り部分点を拾えば及第点・・・と言えます。

京大理系は、第2問が最頻値30点で60%、第4問が35点で40%、第3問が30点で32%なので、この3つが完答狙い目。一方で第1問は40点が25%で20点が34%。完答も目指せないこともないが、悪くとも20点は確保したかった。第5問も35点が19%、9点が20%ですので、こちらも同様に完答目指すか、悪くとも9点は取っておきたかったとなります。最後第6問は0点が45%でしたので、ここは捨て問としてもOK(ただし、8点が33%いたので、部分点拾えないこともない難易度だったといえます)。まとめると、第2・3・4問で完答、第1・5問で部分点を拾えば及第点・・・と言えます。

以上、皆さんの今回の感触と比べていかがでしょうか？

このように、平均点だけでなく「度数分布」に着目することで、完答すべき「取り問」か、部分点でも良しとすべきだったか、あるいは「捨て問」だったかの判断がしやすくなります(ちなみに、他の科目は、大体は正規分布しますので、度数分布の山との比較を見るようにしてください)。